

## 基準 10. 社会連携

10-1. 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

### 《10-1の視点》

10-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を提供する努力がなされているか。

#### (1) 事実の説明（現状）

10-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を提供する努力がなされているか。

大学施設は一般にも広く利用してほしいという考えから、様々な研究会の会場や演奏の練習会場として開放している。しかし交通の便が良くないことから利用申込みは多くはない。むしろ運動場の利用者が多く、周辺住民の運動会、グランドゴルフ、ゲートボールの会場として、また高校生の部活動の練習場として開放している。また体育館についてもバウンドテニス練習会場、オペラや舞踊の練習場、高校スポーツ部の強化合宿場等として提供している。

公開講座は人的・知的資源の提供ということから意識して開催している。平成 20 (2008) 年度はの公開講座は次のとおり。

- ・ 「ハンディキャップ・チャイルドのための音楽療法」 未就学の障害児を対象に月 1 回開催した。音楽療法の集団セッション等を継続して行い、発達検査・評価などを基に障害を持つ子とその親への支援を行った。
- ・ 音楽教育者のための音楽教育講習会「発想を変えよう音楽科の学習～音でコミュニケーションする創造的な楽しい音楽学習～」と題し、6 月に東京学芸大学名誉教授の高萩保治氏の講座を開催した。
- ・ 障害児における音楽療法を本学から社会に向かって発信することを目的に「障害児の音楽療法講演会～自閉症児を中心として～」と題して7月に日本大学芸術学部教授の土野研治氏の講座を開いた。この講座には、小学校教諭、保育士、幼稚園教諭、ピアノ講師、音楽療法士など 132 名の参加があった。
- ・ (財)ローランド芸術文化振興財団理事長の梯郁太郎氏と米国人のオルガニスト；ヘクター・オリベラ氏を招聘し 11 月に「オルガンの魅力について」の特別公開講座を開講した。
- ・ 同じく 11 月に音楽評論の丹羽正明氏による公開講座を開講した。講演テーマは「日本の音楽界の現況」～“全国統計”地域格差、地方からの提言～。

音楽人口(音楽を学ぶことを志す者)の拡大を図ることを目的として、本学では各楽器等の奏法を教授し底辺の拡大に努めている。まず音楽の基礎となるピアノについてはピアノの専任教員による「ピアノクリニック」「グレードアップセミナー」を九州の各地で実施している。管楽器では吹奏楽コンクール課題曲を指導する「吹奏楽コンクール課題曲セミナー」やソロコンテストの入賞を目指す「ファゴット・オーボエセミナー」などを実施し

ている。また、音楽療法コースでは昨年大分市に於いてセミナーを開催し、臨床現場での音楽療法の実践、音楽療法を体験してみようという活動を行い普及活動を行った。出前授業としての天草町内小学校との音楽交流会には本学教員が天草に出向き小学生に音楽交流をはかった。

また、本学では義務教育機関からの教育相談に関する講話や学級担任へのコンサルテーションとしての依頼に対して、心理学系の教員を派遣することにも応じている。

リフレッシュ教育として、平成 19(2007)年度から学内に於いて音楽教育コース主任教授を中心に、熊本県内の小学校・中学校に勤務する音楽担当教員を集め、月 1 回の割合で「音楽の授業を考える会」を開催している。学会としての位置付けには至っていないが、教育現場での実践を持ち寄り、授業改善策等を協議研究している。本学で教員を目指す学生や卒業生も参加できるシステムを取っている。

幼児音楽教育学科では、幼児教育者のための実技講習会「音楽で育てよう！感性あふれる心と体」と題して、現職の幼稚園教諭や保育士を対象に本学の教員が実践に即した内容の指導法なり実技の指導を行った。

教育職員免許状更新講習会については、高等教育コンソーシアムの協力を得て、必修科目は熊本大学で、選択科目の 3 科目を本学内で行うこととした。

## **(2) 10-1の自己評価**

大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育等については、要望があれば柔軟に対応していて、小規模な組織である本学としては知的、人的資源の社会提供を果たしていることと評価する。

## **(3) 10-1の改善・向上方策(将来計画)**

大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源の提供する努力がなされているかという点、努力はしているがクラシック音楽という分野と熊本の郡部に位置する立地条件から、なかなか多くには受け入れられていないのが現状である。地域行政、教育施設や商工会等と密着してクラシック音楽の普及に努めなければならない。

## **10-2. 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること。**

### **《10-2の視点》**

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

#### **(1) 事実の説明(現状)**

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

高等教育コンソーシアム熊本は、平成 18(2006)年 1 月に九州看護福祉大学、九州東海大学、九州ルーテル学院大学、熊本学園大学、熊本県立大学、熊本大学、熊本電波工業高等専門学校、熊本保健科学大学、尚絅大学、崇城大学、中九州短期大学、八代工業高等専

門学校そして本学平成音楽大学の 13 の高等教育機関の集合で結成された。少子化の厳しい社会状況の中で、さらに進学率が低い条件のもと九州で「学生の街熊本」を活性化させることを目的としている。

そうした中で平成 21(2009)年度から実施する教員免許状更新講習についてはコンソーシアム熊本の取り仕切りで、本学も実施が可能となった。必修科目については熊本大学で(本学から教育心理系と教育原理系の 2 名の教員が講座を担当)、選択科目の音楽については本学で実施することとした。「音楽最前線(教育現場における作曲・編曲・指揮)」「これからの音楽教育」「音楽鑑賞と音楽史」の 3 科目を開設する。

## **(2) 10-2の自己評価**

企業や他大学との適切な関係が構築されているか。企業と本学の連携は薄いですが、本学教職員を母胎とした熊本オペラ芸術協会の活動は本学教員や学生の教育研究上において、非常に有益な活動となっている。また、熊本私立大学協会と高等教育コンソーシアム熊本との連携も取れており、適切な関係が構築されていると判断する。

## **(3) 10-2の改善・向上方策(将来計画)**

大学間の連携は熊本私立大学協会と高等教育コンソーシアム熊本に加盟して熊本県内の高等教育機関との連携を保っている。しかし、企業との連携に関しては、社会貢献及び文化支援活動に対する本学の取組は遅れており、適切な関係が保たれているかという点で不十分である。音楽という特殊性から企業との結び付きが困難である。しかし、地方行政の支援を受けながら企業との結びつきにも努力を続けていきたい。積極的に取組を強化していく必要がある。

## **10-3. 大学と地域社会との協力関係が構築されていること。**

### **《10-3の視点》**

10-3. 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。

### **(1) 事実の説明(現状)**

#### **10-3. 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。**

本学の地元である御船町との協力関係は、御船町教育フォーラムによる「学園都市構想の推進」の一翼を担っている。町の文化祭事業での音楽演奏や音楽審査また町内の教育施設での演奏、歌唱指導や授業実践の相談に応じている。

本学は平成 20(2009)年度から球磨村(1,650 世帯、人口 4,675 人)の児童・生徒・一般住民との交流連携事業(大学と地域との交流・連携の推進事業＝文化庁支援事業)を行っている。同年 3 月 1 日に球磨村文化祭&生涯学習フェスティバルのなかで「球磨川流域の音楽を訪ねて」と題して、本学学長が講演し学生が演奏をした。6 月 7 日「ホテルコンサート」、6 月 25 日には球磨村総務課長を迎えて本学内で企画委員会を実施。7 月 19 日に本学学長と球磨村村長にて音楽のまちづくりシンポジウム&講演会の実施。8 月 5 日には球磨村での企画委員会に参加。8 月 20 日「石倉コンサート」に声楽と金管アンサンブルが参加。9 月 24 日、球磨村「文化芸術による創造のまち」支援事業『ふれあいコンサート』で各小

学校や施設を訪問して演奏。このような活動を行っている。

音楽以外の社会活動としては県内の 80 ほどの事業所で構成する「熊本いいくに会」への参加がある。この会は、地場で営み、地場で暮らす企業会(経営者の会)、社員会(専門委員会)、学生会(学生・フリーター)が活動して熊本の未来創りを協力し合い実行していく有志の会で様々なボランティア活動を行っている。本学も清掃活動や温暖化防止活動への参加、熊本市の夏祭りでの打ち水作業、県の観光名物となっている火・水・竹による灯りの空間「みずあかり」への参加など活発に活動しているほか、会に加盟する事業所の新入社員研修会における会場提供も行っている。

また音楽の普及と振興に寄与することを目的に、音楽学科、幼児音楽教育学科の各コースによる派遣演奏・派遣模擬授業を行っている。小・中・高校からの依頼があれば授業に差し支えない限り、楽器編成などを工夫し要望に応じている。また、地域の音楽団体との交流も含めた演奏会も開催し、平成 20 (2008) 年度は「特別演奏会 in 菊池」と題して地域の合唱団が参加した交流演奏会を行った。

## (2) 10-3の自己評価

本学と協力関係にあるのは地元の「御船町」と「球磨郡球磨村」である、音楽を通して児童・生徒の感性と情操教育を行う支援活動を展開している。また、各種音楽コンクールへの審査や企業・小・中・高校等からの招聘演奏や出前授業に応じたり、病院・介護施設及び老人ホームでの音楽療法実践等で精力的に対応している。こうしたことから大学と地域社会との協力関係はうまく構築されていると判断する。

## (3) 10-3の改善・向上方策(将来計画)

上記の自己評価で述べているように、音楽を実践とした繋がりや協力関係はうまくいっているが、教育研究上においての企業や他大学との適切な関係が保たれているかということと不十分である。音楽という分野ではなかなか企業や大学との結び付きは難しい。しかし社会的責務と考え、努力して開拓して行く方針である。

### 【基準10の自己評価】

教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が保たれているかということと充分とは言い難い。音楽による企業や大学との結び付きを開拓する必要がある。

大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育等については、要望があれば柔軟に対応していて、小規模な組織体の本学としては知的、人的資源の社会提供を果たしていると評価する。

企業や他大学との適切な関係が構築されているかという点については、件数も多くはなく規模も小さいものだが、それぞれの機会を大切にし適宜行っているため少しずつではあるが構築されてはいる。他大学との連携も「熊本県私立大学協会」や「高等教育コンソーシアム熊本」に参加し、その役割を果たしながら連携を保っている。

「御船町」「球磨村」「企業」「小・中・高校」等への招聘演奏や出前授業、「病院」「介護施設」及び「老人ホーム」での音楽療法実践等から大学と地域社会との協力関係はうまく構築されていると判断する。

**【基準10の改善・向上方策(将来計画)**

大学間の連携は「熊本県私立大学協会」と「高等教育コンソーシアム熊本」に加盟して熊本県内の高等教育機関との連携を保っている。しかし、企業との連携に関しては、社会貢献及び文化支援活動に対する本学の取組みは遅れており、適切な関係が保たれているかという点で不十分である。音楽という特殊性から企業との結び付きが難しい、地方行政の支援を受けながら企業との結びつきにも努力を続けていきたい。積極的に取組みを強化していく必要がある。